

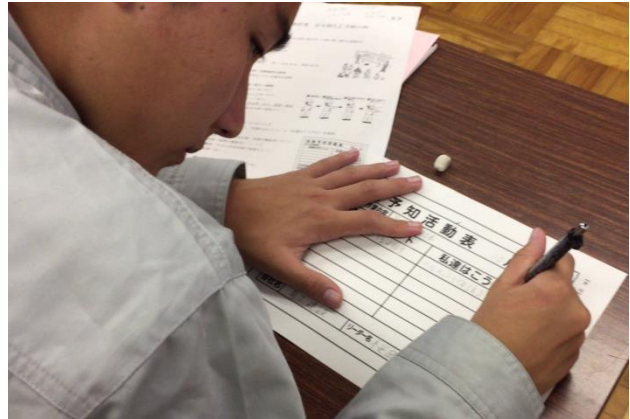
工業技術基礎 「安全教育」

本校建築科では、実務施工系の実習で【安全教育】を実施しています。
建設現場では、労働災害の根絶を目指し、安全衛生教育の実施が義務付けられています。
建築科では、将来、建設業に携わる生徒に対して、高校在学中から「安全第一」の精神を確実に身につけさせる指導を行っています。

工業高校では、教室で勉強した授業内容を実験・実習で理解を深めていきます。



建設業の安全管理について



危険予知活動演習



保護具（安全帯）の装着訓練



安全朝礼（ラジオ体操）



安全朝礼（指さし確認）



安全朝礼（危険予知活動）

工業技術基礎 「木工：さしがねの使い方」

本校建築科1学年の「工業技術基礎」では、木材加工の基礎となる大工道具の使い方を勉強しています。前回に引き続き、大工道具の【さしがね】を使い、墨付け(すみつけ)の方法を勉強しています。本来ならば、大工の棟梁が家一軒に使う木材すべてを墨付けします。

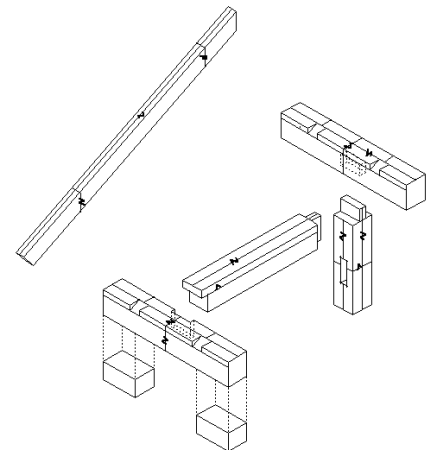
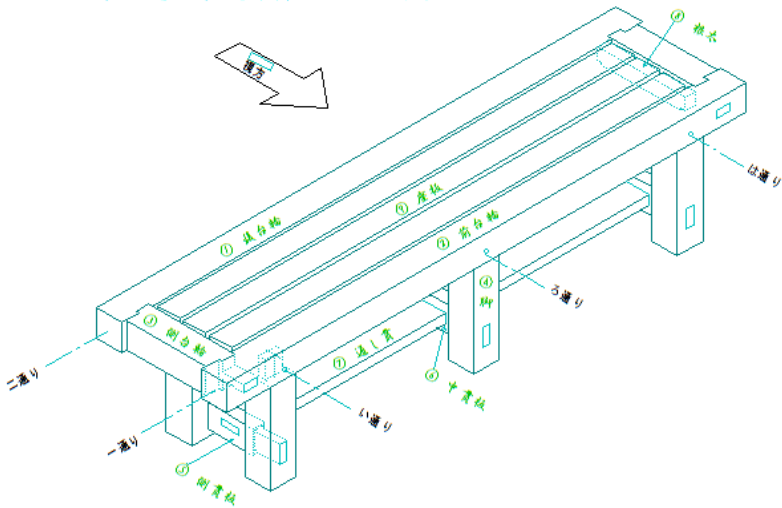


工業技術基礎 「木工：鑿の使い方」

本校建築科1学年の「工業技術基礎」では、木材加工の基礎となる大工道具の使い方を勉強しています。前期の授業では、墨壺(すみつぼ)、墨差し(すみさし)、曲尺(さしがね)、鋸(のこぎり)、鑿(のみ)、鉋(かんな)の使い方を体験的に勉強し、後期から建築大工の技術を使った木製ベンチの作成をします。また、希望者は、技能検定3級建築大工受験をします。



工業技術基礎(本造実習) ベンチの製作



3級技能士 建築大工 実技課題

工業技術基礎 「木工：鉋の使い方」

本校建築科1学年の「工業技術基礎」では、木材加工の基礎となる大工道具の使い方を勉強しています。前回に引き続き、大工道具の鉋(かな)の使い方を勉強しています。大工さんの^{かたな}刀に相当する道具で、思い入れも強い道具の一つです。木造建築では、最後に仕上げに使います。

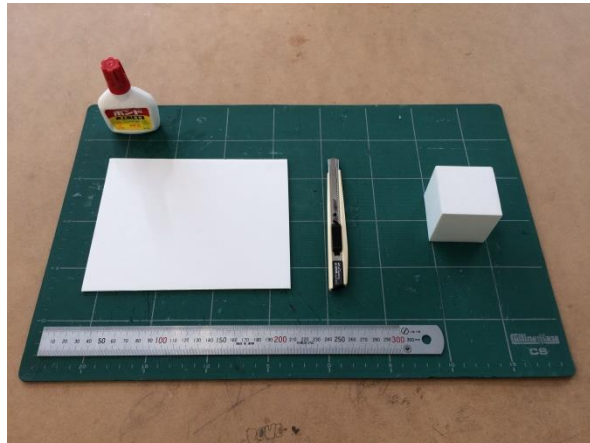


工業技術基礎「造形」

本校では、1学年の工業技術基礎における造形実習でスケッチ・模型製作を通じて立体感を養います。

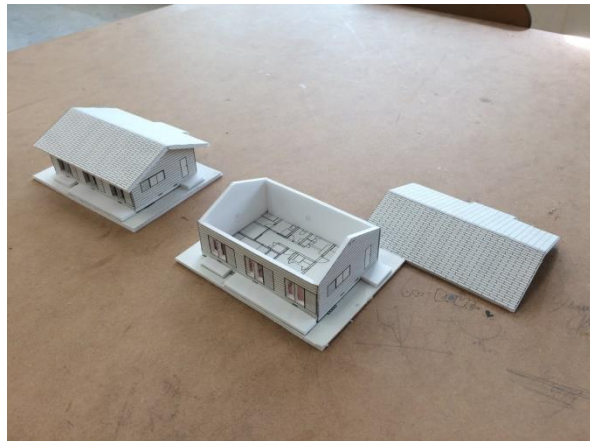
工業高校では、教室で勉強した授業内容を実験・実習で理解を深めていきます。

- ① 建築模型材料のスチレンボードを使って立方体を作ります。ここでは、模型製作の基礎となるカッター・定規の使い方、スチレンボードの加工・組立の仕方を学びます。



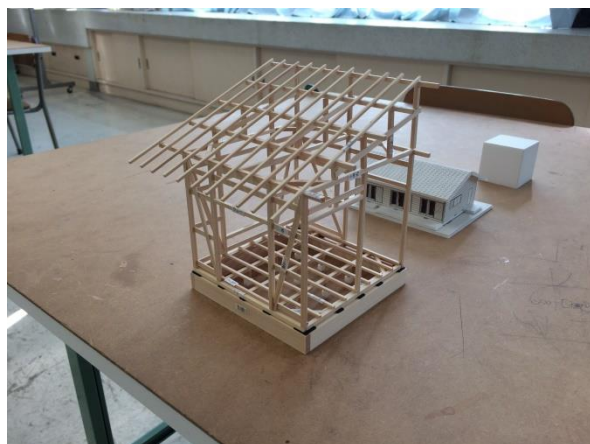
模型基礎（立方体）

- ② スチレンボードを使って建築製図の授業で描いた『平家建て木造住宅』を1/100（100 cmを1 cmの大きさで表す）の大きさで作ります。



外観模型（平家建て木住宅）

- ③ ヒノキで出来た棒状の材料を使って、建築構造の教科書で学んだ木構造の骨組みを1/30の大きさで作ります。②の『平家建て木造住宅』の和室部分を作っています。



軸組模型

工業技術基礎「測量①」

本校では、1学年の工業技術基礎において、測量（距離・高さ・角度の計測）の基礎を学びます。前半では、巻き尺を用いての敷地面積の計測・算定と自動レベルの扱い方を身に着けます。

工業高校では、教室で勉強した授業内容を実験・実習で理解を深めていきます。



敷地面積測量全景



読み取り・記録



自動レベル据え付け



計測作業



計測作業



高さ1mの測設

建築科「建物・建設現場」見学会

本校建築科では、1学年を対象に『江戸東京博物館』へ建物見学、『大規模建設現場』へ現場見学を実施しました。

工業高校では、校外においての体験を通じて学習の理解を深めています。

① 11月13日（火）：江戸東京博物館建物見学



三井越後屋 1/10 模型



体験住宅

② 11月14日（水）：大規模建設現場見学



若手職人さんによる工事説明

※現場作業の見学の様子は、撮影禁止のため掲載していません



質疑応答